

## 東京福祉会

①東京都文京区千駄木3-52-1 ②原山陽一  
③1か所 ④3,413件 (江古田斎場)

### 創立100周年に向け、品質向上を目指す社会福祉法人

昨年、創立95周年を迎えた社会福祉法人東京福祉会は、生活困窮者や行旅死亡人の葬祭援助などの助葬事業を行なうとともに、一般対象の葬祭（公益）事業や納骨堂、特別養護老人ホームの運営など多様な事業を展開している。なかでも葬祭部門は、助葬、一般葬を合わせると、2014年度は4,628件（助葬3,003件、一般葬1,625件）を施行している。

超高齢社会を迎えて死亡数が増加傾向にあるなかで、葬祭事業を取り巻く環境は厳しさを増しているが、来たるべき100周年に向けて、社会福祉法人としての使命と社会的責任を果たしていくため、さまざまな品質向上を目指している。

同会は、1919（大正8）年、油問屋を営んでいた故渡辺竹次郎氏が、私財を投げ打って財団法人助葬会として創設したのがそのはじまりで、戦前・戦後を通じて生活困窮者の助葬事業を担ってきた。52（昭和27）年、社会福祉法人に改組、91年には助葬会から現在の東京福祉会に名称変更した。

西武池袋線江古田駅北口から徒歩1分の練馬区小竹町に建つのが、東京・北西エリアにおける葬祭事業の拠点「江古田斎場」。同会設立から間もない21年に、宮内省（現宮内庁）から東京府北豊島郡上板橋村（現練馬区小竹町）の御料地を下賜され、聖恩山霊園（納骨堂）を建立。同霊園に隣接して77年に

開設されたのが江古田斎場である。約3,813㎡の広い敷地には、蓮華堂、唯心堂、大悲堂、江古田会堂の式場4棟を擁していたが、築20年余りを経て、02年に施設を全面改築して、オープンした。

#### 社会貢献活動とともに地域との連携強化

江古田斎場は、3階建ての第一、第二会館と納骨堂からなり、第一会館は1、2階に2式場（70席・100席）と会食室、遺族控室、導師控室、3階に法事室、導師控室、会食室などを設け、第二会館は1、2階に2式場（40席）、会食室、3階に法事室、会食室、遺族控室、導師控室などを配置。

「第一会館は比較的会葬者が多い式に、第二会館は小ぢんまりした式にご利用されることなどを想定して、どのようなニーズにも応えられるような式場を設けてあります。また、自宅安置ができないお客様には保冷庫でお預かりしております」（業務本部長・江古田斎場長白根幸典氏）

練馬区の指定葬儀場になっており、一般対象の葬儀では練馬区民の利用が多い。社葬や著名人の葬儀も年平均10～15件施行しているが、会葬者が多い場合は第一会館を全館貸切で使用し、1階に受付を設け2階式場をメイン会場にして施行。通夜振舞いや精進落としなどの料理は、地元業者によるケータリングで対応、2年前からは

ビュッフェスタイルの食事も取り入れている。

同会は、江古田斎場と「道灌山会館」（文京区千駄木、2式場）、「ホール多摩国立」（国立市谷保、1式場）の直営3会館を有する。14年度の施行件数4,628件のうち江古田斎場3,413件（助葬2,405件・一般葬1,008件）、ホール多摩国立635件（助葬511件・一般葬124件）、道灌山会館580件（助葬87件・一般葬493件）で、江古田斎場での施行が7割強を占める。

79年5月からは、基本料金の割引など、特典を充実させた「会友制度」（Aプラン＝加入金1,000円・Bプラン＝同1万円）を発足させ、普及に力を入れる。一方、各会館では友引寄席や展示会・相談会などを開き、地域とのつながりを強化している。

同会は、社会福祉法人としての責務を果たすためさまざまな社会貢献活動を実施。今年4月に制服を一新したが、3月まで使用していた制服約200着については、ホームレスの方々のための就労自立を目指す自立支援センター（足立寮・台東寮・目黒寮）に寄贈した。

また、大切な方との死別によって生じる強い悲しみや悲嘆を少しでも癒していただくため、グリーフワークのための「“わ”の会」を2007年より実施。昨年までに延べ750人の方々が参加している。同会は、会報誌「響」<sup>ひびき</sup>を年3回発行しているが、同誌の著名人によるエッセイは好評で、昨年11月にはいままで「響」に掲載したエッセイを集めた「響の縁」を発行し無償配布している。